

埼玉親善大使 留学レポート

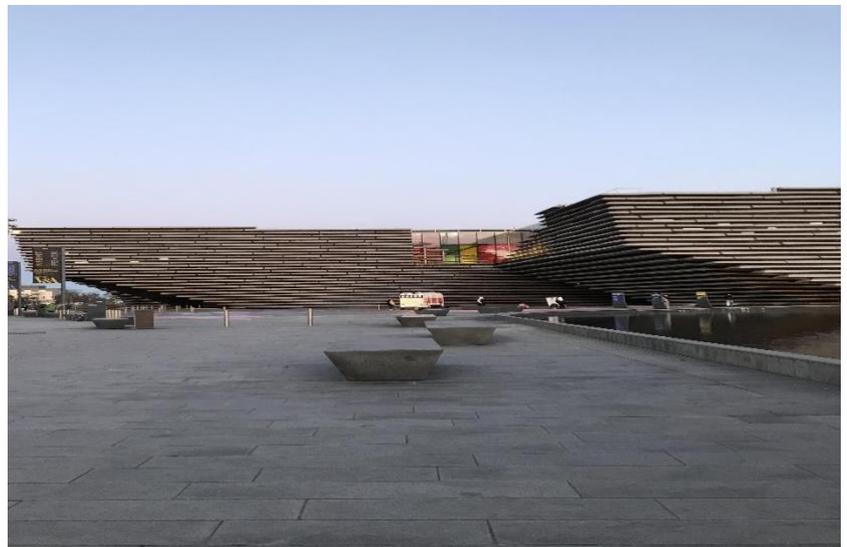
氏名：S.H

留学先： イギリス/スコットランド/エディンバラ大学



名誉ある埼玉親善大使に任命していただきましたこと、改めまして誠に感謝申し上げます。市内中学生の英語弁論大会に出場したり、県立川越女子高校での学びの時間は海外留学に繋がる知的好奇心を養った時期でもあり、常々育てていただいた埼玉県に何か恩返しをしたいと思いますと考えていました。埼玉県素晴らしさをより多くの方に知っていただけるよう、三年間を通してしっかりと任務に励みます。

海外で生活すると、日本への高い評価にいつも驚かされます。現在、私は博士課程一年目に所属していますが、修士号もスコットランドで修めているため、日本（人）がどう思われているのか肌で感じる機会は今までも豊富にありました。ありがたいことに、日本出身という日本はどこ？と必ず興味を持ってもらえます。他の外国人がまだ知らない素敵な場所を知りたいという方も多いため、そのときは埼玉が首都から近くアクセスが良いことを伝えて、私も大好きな小江戸川越や自然溢れる秩父や海外でも大人気のジブリにまつわる狭山丘陵など多くの魅力溢れる場所をお話しするようにしています。また、ダンディーというスコットランド第四の都市の新たな観光名所、V&A 美術館を隈研吾氏が設計されたことから、同氏が手掛けた、ところざわサクラタウンの話も興味を持ってもらえたりします。



コロナ禍での留学は私たち留学生にとって大きなチャレンジです。留学生は通常的环境下でも言葉の壁や文化の違いなどから、孤独を感じやすいです。そこに輪をかけて、オンライン授業が主となり、最低限の対人接触が推奨されるとなると仲間を見つけられず苦しんでいる人も多いです。私は学生寮に住んでいて、英語にも苦手意識がないことから積極的に周囲の学生に声をかけるようにしています。少しでもみんなが友達を作ったり触れ合うような環境が作れたら、また日本の文化を楽しんで好きになってもらえたらと考え、手巻き寿司パーティーを自分のフラットで定期的に開催しています。スーツケースの重量制限と格闘してでも、優先して持ってきたかったおいしい狭山茶と一緒に振る舞うとみんなとても喜んでくれます。

最後になりますが、日本が大変な状況でも私たちの学ぶ機会を守ろうと留学生支援を続けてくださるみなさま、オンライン送別会で激励して下さったみなさまには本当に感謝してもしきれません。その際、大野知事にいただいたお言葉で、文化の違いに触れたとき、そこから一歩踏み込んでどうしても異なるのか、そしてどうしたら理解しあえるのかという深い視点で考えることが大切という考え方にとっても感銘を受け、いつも心がけています。埼玉県民であることを誇りに思い、このような機会をいただけたことに感謝し、親善大使としてスコットランドの地で精一杯任務を努めたいと思います。最後までお読みいただき、ありがとうございました。